

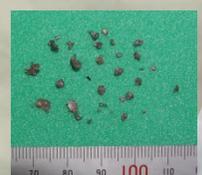
なぜ起こる？鉛中毒 ～鉛中毒発生のメカニズム～



鉛弾（ライフル弾）は当たると粉碎しながら体内を進行するため、細かな鉛破片が体内に多数残留しています



被弾したエゾシカの前足のレントゲン
(点線内に微細な金属片)



摘出した鉛片
(1~6mm)



猛禽類の場合

野外に放置された狩猟残滓内の鉛弾(ライフル弾、散弾)を摂取したり、鉛散弾を誤食もしくは被弾した水鳥を捕食することで鉛中毒を発症します。

水鳥類の場合

水鳥猟に用いられる散弾が水辺に蓄積し、水鳥は消化補助のため飲み込む小石とともに散弾を誤食し、鉛中毒症を発症します。



オジロワシ（鉛中毒）



オオワシ（鉛中毒）

猛禽類の鉛中毒を ふせぐために

弱ったり、死んだオジロワシ・オオワシ（希少猛禽類）を見つけたら・・・

(釧路・根室・オホーツク管内)
釧路自然環境事務所野生生物課
〒085-8639 釧路市幸町10-3
釧路地方合同庁舎4F
Tel. 0154-32-7500 Fax. 0154-32-7575

(上記以外の地域)
北海道地方環境事務所野生生物課
〒060-0808 札幌市北区北8条西2丁目
札幌第1合同庁舎3F
Tel. 011-299-1954 Fax. 011-736-1234

休日：
釧路湿原野生生物保護センター
〒084-0922 釧路市北斗2-2101
Tel. 0154-56-3465



背景写真は鉛中毒で死んだオオワシのレントゲン写真

鉛弾の違法使用により、 多くの猛禽類が 命を落としています

北海道では主にエソシカ鴉に使用される鉛銃弾が原因となり、オジロワシ・オオワシだけでもこれまでに120羽以上が鉛中毒症になり、そのほとんどが死亡しています。
この問題に対し、北海道庁は平成12年よりエソシカ鴉への鉛弾使用を禁止し、平成16年にはヒグマも含めた大型獣捕獲用の全ての鉛弾（ライフル、7mm以上の散弾）の使用を禁止しましたが、猛禽類における鉛中毒は依然として続いています（オジロワシ・オオワシでは平成17年以後も毎年平均7羽の罹患を確認）。



死体回収されたオオワシ

多量の鉛を摂取して急性中毒に陥った場合、ほとんどの場合死に至ります。自然回復は見込めません。

鉛は毒性が非常に高い金属であることから、摂取量が極少量（1片）であっても、慢性的に代謝異常や運動失調が続き、正常な行動がとれなくなることが考えられます。実際に交通事故や感電事故で死亡した個体から高濃度の鉛汚染が確認されることもあります。

急性中毒

重度貧血：低色素性貧血

嘔吐
下痢
腹痛
神経症状

神経症状：
中枢・末梢神経に障害をきたし、歩くことが困難であったり、元気がなくなったり、首を傾げたりといった症状が見られます。

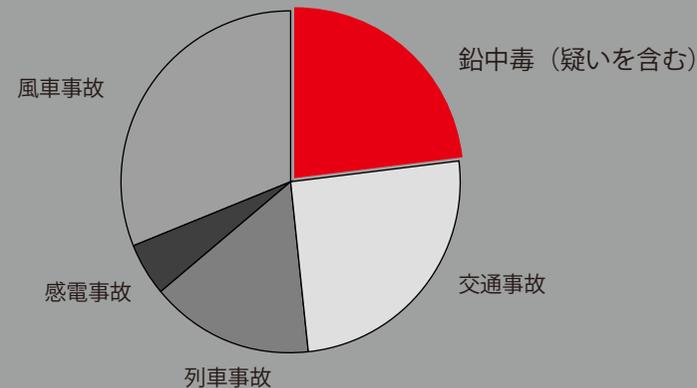
胃内の金属：
微細に砕け散った鉛は肉食の猛禽類では胃液の酸性度が高く、金属片はすぐ吸収され、症例の約半数で金属がレントゲンに映りません。猛禽類では不消化物を長い間胃に留めるため、胃の中で鉛が溶けて吸収され、鉛中毒に陥りやすいのです。

慢性中毒

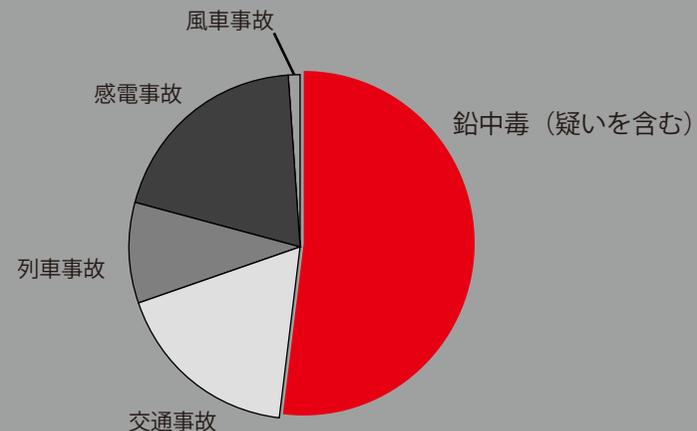
食欲不振
下痢
削瘦



鉛中毒で神経障害をきたしたオオワシ成鳥



オジロワシの傷病要因



オオワシの傷病要因

平成16年10月、北海道ではヒグマも含めた大型獣捕獲用の全ての鉛弾が規制されましたが、以後もオジロワシで年平均2.4羽、オオワシで年平均3.8羽の鉛中毒個体が収容されています。

※上図は平成15～24年度に保護増殖事業の一環として収容されたオジロワシ・オオワシで、要因が判明しているものについて割合を示したものです。